

こんなことができます!

環境放射線、低線量被ばく  
による人間や環境への  
リスクについて  
人々にお伝えします



線量計付 GPS 首輪を付けたチェルノブイリのオオカミ。  
位置情報と被ばく線量が毎時衛星経由で研究者に届く



夢

環境放射線の専門的な知識と経験  
を福島の人々のために役立てたい

環境放射線研究所

トーマス ヒントン

Thomas HINTON

教授 博士 (放射生態学)

研究室 URL

<http://www.ier.fukushima-u.ac.jp/index.html>

専門分野

環境放射線学；放射生態学

特許情報、著書、論文

Where the wild things are: influence of radiation on the distribution of four mammalian species within the Chernobyl Exclusion Zone, *Frontiers in Ecology & the Environment*  
DOI:10.1002/fee.1227 (2016) 等  
100 以上の論文 (査読付き) を科学雑誌に発表しています。



主に避難区域における低線量被ばくが野生動物へ与える影響について、調査研究を行っています。

野生動物の外部被ばく量を調査するため、線量計付 GPS 首輪を動物に装着し、動物の移動経路と外部被ばく線量データを同時に得る方法を開発しました。こうした研究成果から放射能に汚染された生態系の改善につなげられるよう調査研究を行っています。

想定するパートナー

福島県や県内の自治体・猟友会の方々、国際共同研究者など

具体的な連携、事業化のイメージ

野生動物に関係する機関と共同で研究を進めたい

これまでの取組事例

フランスの European Network of Excellence in Radioecology にて 10 か国、11 機関の研究コーディネーターの勤務経験があります。その他、これまでもたくさんの国際的な共同研究を実施してきました。

教育  
学習支援

健康  
福祉  
防災  
都市計画  
地域  
産業振興

食・農

経営支援

ファイナンス

人材育成

法律

ライフ  
サイエンス

情報通信

環境

ナノテク  
材料

エネルギー

ものづくり  
技術

社会基盤

フロンティア

